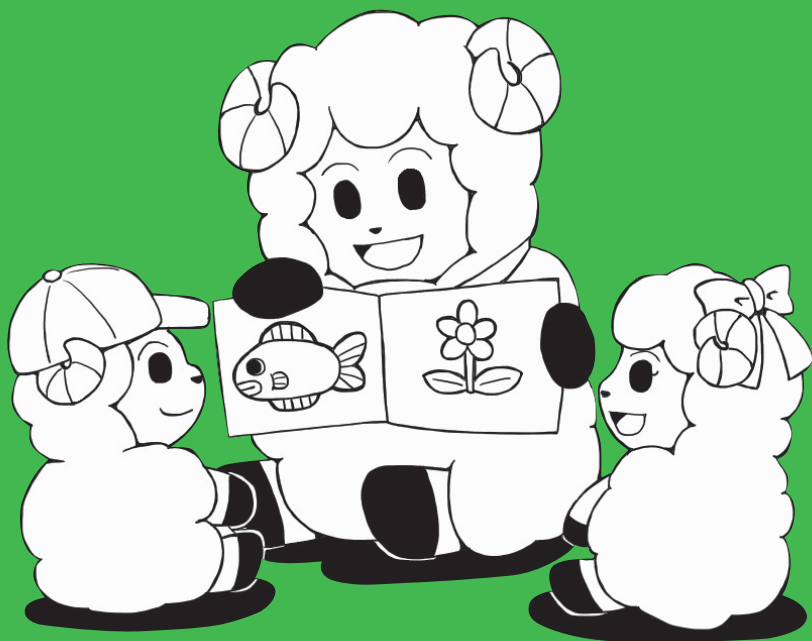


2018年度

西南学院大学 ボランティアガイドブック

Seinan Gakuin University Volunteer Guidebook



西南学院大学
キリスト教活動支援課 ボランティアセンター

目 次

はじめに

センター長挨拶	1
ボランティアセンター（通称：ボラセン）とは？	2
ボランティアって、なんだろう？	3
ボランティア活動について（相談～活動までの流れ）	4
ボランティア登録について	5
ボランティア活動の心構え	5

ボランティア活動

①ちょこボラ（ちょこっとボランティア）	6
②東日本大震災ボランティア	8
③熊本地震ボランティア	9
④九州北部豪雨ボランティア	9
⑤海外ボランティア	15
⑥学生サポーター	17
⑦他機関連携	18
⑧学内ボランティア	21
⑨学外ボランティア	24

学生グループ活動（サークル紹介）

学生スタッフ研修・ボランティアカフェ	27
学生ボランティア団体合同説明会	28
印刷機・紙折機・裁断機の使用（無料）について	28
活動室の利用について	28
（1）OPEN	29
（2）いと	29
（3）のびっこの会	30
（4）Pao	30
（5）手話サークル とびうめ	31
（6）ワークキャンプ部	31
（7）Think & Act	32
（8）西南FIWC 九州	32
（9）SIEC（西南国際教育協力隊）	33
（10）西南ラブ・グリーン	33
（11）学生YM(W)CA	34

そ の 他

学生ボランティア団体助成	34
社会福祉協議会（社協）	35
2017 年度ボランティアセンター活動記録	36

はじめに



ボランティアセンター長 石森 久広

西南学院大学にご入学おめでとうございます。皆様のご入学を心からお祝いし、歓迎いたします。これから始まる学生生活、友との出会い、師との出会い、学問との出会いの中で、豊かな時間を過ごしてください。

本学では、ボランティア活動を建学の精神である「西南よ、キリストに忠実なれ」の具現化並びに大学の社会貢献の一つと位置づけ、学生・教職員等によるボランティア活動を支援・推進する部署としてキリスト教活動支援課の中にボランティアセンターがあります。ボランティアセンターは、さまざまなボランティアの情報を提供し、皆さんの相談に応じています。お弁当容器やペットボトルキャップ、古本や古切手などを提供する身近なボランティアから、学生サポーターで地域の小・中学校で活動するボランティアや重度障害児者施設の久山療育園でのボランティアもあります。

本学では、東日本大震災が発生した後から毎年継続してボランティア活動をしており、昨年度は東北に3チーム39名の学生・教職員を送り出しました。また、熊本地震ボランティアとしても18名の学生・教職員が現地で活動したりフォーラムに招かれて報告しました。さらに、昨年度発災した九州北部豪雨では、東北、熊本でのボランティア活動経験を活かし、福岡県や北九州市立大学、NPO法人ANGEL WINGSと協働して「うきはベース」を開設し、全国の学生ボランティア無料宿泊拠点を運営しました。本学からも、日帰りを含めて245名の学生・教職員が活動しました。さらに、海外に目を向けると、フィリピンで活動する海外ボランティア・ワークキャンプが2003年度から実施されており、昨年度は18名の学生・教職員が活動しました。他にもガイドブックに紹介しているボランティア活動のサークルもあり、皆さんの参加を心待ちにしています。学内だけでなく、学外からのボランティア依頼にも対応していて、多くの学生たちが活動しています。

ボランティアは、子ども・高齢者・地域・環境・国際交流など、幅広い分野で展開されています。大学在学中にボランティア活動をすることで、同年齢だけでなく、乳児から高齢者まで、多くの幅広い年齢の方々や仲間と出会い、社会・地域・施設・行政・企業などとの出会いがあり、視野が広がることでしょう。自分に合う活動を見つけることで、自身をみつめる良い機会となり、自分の新たな一面と出会えるかもしれません。

ぜひ、大学入学を機会にボランティア活動を始めてみてください。ボランティアセンターは、皆さんをいつも応援しています。

ボランティアセンター（通称：ボラセン）とは？

ボランティアセンターは、ボランティア活動を建学の精神の具現化並びに大学の社会貢献の一つと位置付け、学生、教職員等によるボランティア活動を支援・促進することを目的としています。センター内には、職員が常勤していますので、ボランティアをするのが初めての方や迷っている方など、どなたでもお気軽にご相談ください。

【場 所】 ボランティアセンター（キリスト教活動支援課）

1 号館 2 階 エレベーター横

TEL 092-823-3662 FAX 092-823-3335

E-mail : swvoc@seinan-gu.ac.jp

【開室日】 通常期間 月～金 8:45～17:20

（長期休暇中や行事などで閉室する場合があります）

【休室日】 土曜日、日曜日、国民の祝日、学院創立記念日、クリスマス、
年末年始、その他大学が特に定める日

【サポート】 ボランティア活動に関する相談、情報交換会の開催、
ボランティア情報・関連する講演会やイベント情報の発信、
ボランティアグループとの懇談会



【ボラセンが企画するボランティア】

- ・東日本大震災ボランティア
- ・熊本地震ボランティア
- ・九州北部豪雨ボランティア
- ・緊急災害ボランティア
- ・他機関との連携企画
- ・学内ボランティア
- ・海外ボランティア
- ・学生サポーター
- ・久山療育園ボランティア
- ・ちょこっとボランティア
- ・その他

【学内外からの主な依頼】

- ・学内の各部署が募集するボランティア
- ・イベントのお手伝い（障がい者施設・高齢者施設・学内など）
- ・リサイクル、ゴミ拾い
- ・地域活性化活動（商店街など）
- ・街頭募金活動
- ・その他

ボラセンからメッセージ

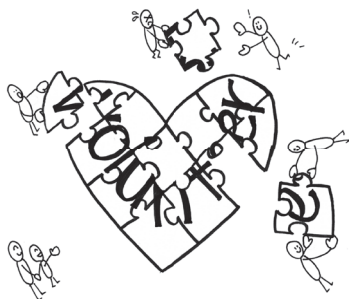
ボラセンのスタッフは、アドバイスするだけでなく、皆さんと一緒にボランティアや活動について、考えていきたいと思っています。まずは、いつでも気軽にたずねてきてください。皆さんとお話できるのを楽しみに待っています！



ボランティアって、なんだろう？

高齢者や障がい者、困ってる人の手助け？ 善意あるお手伝い？
どれも大事なことだけど、専門知識もないし、何だかすごいことの
ようで、想像すればするほど、難しそう・・・
なんて思っている人は多いのではないのでしょうか。

それでは、今までにこんな経験はありませんか？
バスの中で自分の席の前にお年寄りが・・・
『席をゆずろうかな、どうしようかなあ・・・』と
ソワソワした経験。
荷物を沢山抱えた人がドアの前で困っている・・・
『扉を開けてあげよう！』と駆け出した経験。



“ほっとけない” “あの人の為に何かしたい・・・” “そんな、くすぐったいような、もどかしい
ような、モヤモヤした感覚。それこそが、ボランティアの種。皆さんの心にそっと芽生える
“ボランティアの種”を大事にして、育て、勇気を出して一歩前へ踏み出してみましょう。
“誰かのために”歩みだしたことが、結局は“自分にも何か与えられている”その2つが同時
に起こる素敵なことが「ボランティア」なのです。

ボランティア活動の4つの原則

自発性・自主性

～「やりたい！」想いと初めの一歩を大切に～

ボランティアは、自分の“やりたい！”想いを形にして始める活動であり、他からの強制や義務で行う活動ではありません。決めるのは自分自身なので、積極的に行動できます。自分の想いを活動として表現するので、人の心に働きかける力をもっています。

無償性・無給性・非営利性

～お金では買えない目に見えない心の財産～

ボランティアは、活動を通して、お金では得ることができない達成感や感動、仲間との共感、新たな出会い、気づきを得ることができます。個人的な利益や金銭的な報酬を期待するものではありません。
(ただし、交通費や食費、材料費などの実費弁償は、有償とはみなしません。)



先駆性・開拓性・創造性

～アイデアから、より良い地域や社会を創ろう～

ボランティアは、今日の前にある必要なことに、すぐ手を差し伸べ取り組むことができます。今ある仕組みや発想にとらわれず、何が必要とされているのかを考えて、新しく創り出し、新しい仕組みやサービスを生み出すことができる活動です。結果的に先駆的で開拓的な分野や活動を担うことになります。

社会性・公益性・連帯性

～みんなのために、みんなで支え合おう～

ボランティア活動は、一人ひとりの人間を大切にすると共に、だれもがいきいきと豊かに暮らせる社会を目指しています。社会にはさまざまな課題があり、すべての課題を自分一人で解決することは難しいです。多くの人と出会い、つながり、協力しあい、学び合って、共に課題を解決する活動です。

ボランティア活動について（相談～活動までの流れ）

①ボラセンに行ってみよう！

（1号館2階エレベーター横）

ほとんどの人が、大学生になって初めてボランティアをしています。ボラセンでは、初めての人を対象に講座なども開催しているので、自分に合う活動や講座と一緒に探しましょう。



※ボランティア登録をしよう！
（5ページ参照）



②自分にあうボランティア活動に参加してみよう！

参加したい活動が見つかったら、各自で団体に申し込みましょう。いよいよ、ボランティア活動の始まりです。申込後は、各自で大学生としての自覚と責任をもって参加し、急に参加できなくなった場合も、必ず自分でお詫びの連絡をしましょう。困ったことが起きたら、ボラセンへ相談してくださいね。

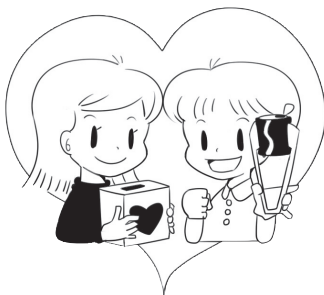


※ボランティア活動保険に加入しよう！
（24ページ参照）



③ボランティア活動について報告しよう！

活動が終了したら、ボラセンまで体験談をお寄せください。皆さんの体験談が、次にボランティアをする方への情報源として活用されます。



※ボランティア登録をしている方は
Moodle 上で活動の報告ができます！

ボランティア登録について

ボラセンには、学内外から様々なボランティアの依頼があります。これらの依頼内容は、ポータルにアップしたり、ボラセンの掲示板に掲示しています。なお、ボランティア登録をされた方には、定期的にボランティア情報をMoodleからメール配信しています。ぜひ、次の方法で登録をしてください。

※ボランティア登録は、年間を通して受付をしています。
(登録料・会費などは一切かかりません)

【登録方法】

E-mail swvoc-vol@seinan-gu.ac.jp 宛に

タイトル「ボランティア登録」

本文に ①在学番号 ②氏名

をご記入の上、送信してください。

※メールは、在学番号のアドレスへ配信いたします。



《ボラセンのHPからも登録できます》

ボランティア活動の心構え

1、無理せず、背伸びせず、楽しく継続

ふだんの暮らしに支障が出る活動は、長続きしません。自分の出来ることだけでなく、出来ないことについても活動先には伝え、自分に合った活動を選びボランティア活動を楽しみましょう。

2、最低限のマナーは守る

小さなことでも、活動先との約束は必ず守りましょう。特に時間厳守を意識し、遅刻や欠席の場合は、必ず各自で責任をもって活動先に連絡してください。突然、連絡が途絶えると、活動先は困ります！最後まで「西南学院大学の学生」である自覚をもって、行動しましょう。

3、身だしなみの確認

申込みの際、活動中の服装についても事前に確認し、特に、必要以上のアクセサリーは外して活動しましょう。活動前にもう一度、自分の身だしなみをチェックするよう心がけましょう。

4、秘密厳守（個人情報）

活動を通して知り得た個人情報は口外してはいけません。逆に、自分の連絡先も活動先の担当者以外に、みだりに教えてはいけません。また、安易に写真を撮ることは控え、活動先の許可を得てから撮影しましょう。

5、お互い気持ちよく、信頼関係を築こう

様々な思いの人たちが、いろいろな役割に関わっています。相手を尊重し、協力しながら、コミュニケーションを深め、信頼関係を築いていきましょう。



ボランティア活動

① ちょこボラ（ちょこっとボランティア）

今すぐ始められ、身近なところから自分のできることを無理なく楽しくマイペースにお手伝いできる「ちょこボラ」をご紹介します。

(1)被災地を応援するボランティア

①災害支援金

被災地に災害支援金を送ろう！

本学では、災害支援金を募って被災地へ届けています。

東日本大震災・熊本地震・九州北部豪雨災害などの被災地支援金として送金 ほか

※寄付金控除の対象外です。

【口座】 西日本シティ銀行西新町支店
普通 1569416
「学校法人西南学院義援金口」

※本・支店窓口（ATMを除く）から振り込む場合は、振込手数料は不要です。



②お弁当容器の回収（災害支援金に協力できます）

お弁当容器を回収し、被災地に災害支援金を届けよう！

リリパック回収による払戻金が東日本大震災の被災地へ送る災害支援金になります。お弁当を食べ終わったら、赤い（もしくは黒い）フィルムをはがし、白い本体のみを回収ボックスへ！割れても大丈夫です！

弁当容器1個が10円の災害支援金として募金されます。

※生協、クロスプラザで販売されているお弁当のみ

【回収ボックス設置場所】

1号館：2・3階エレベーターホール、

2号館：学生ホール、2階廊下、学術研究所1階ロビー、

西南クロスプラザ1階、西南会館…生協食堂、西棟1階ラウンジ



(2)ペットボトルキャップの回収

ペットボトルキャップを回収し、世界の子どもたちにワクチンを届けよう！

飲み終わったペットボトルのキャップは、回収ボックスへ！

ペットボトルキャップ約2000個のリサイクル対価が、

一人分のポリオワクチン（約20円）に相当します。

※リサイクル対価は市況によって変わる場合があります。

【回収ボックス設置場所】

本館、1号館2階入口、1号館3・4・5階の休憩室、2号館2・3・4階、4号館1階、西南会館、体育館前、生協食堂、クロスプラザ、2号館学生ラウンジほか



(3) 寄付本★プロジェクト

自宅で眠っている不要本を寄付して、奨学基金へつなげよう！

不要となった古本などを寄付し、奨学基金へつなげるプロジェクトです！

【回収ボックス設置場所】

学術研究所、コミュニケーションプラザ各階ロビー、
法科大学院事務室内、1号館2階ボランティアセンター、
2号館1階学生ホール

※業者の回収は、原則、第1火曜日です。

《対象となるもの》

専門書～趣味の本までOK・書込みされた本もOK

CD・DVD・ゲームソフト

《対象とならないもの》

(書 籍) 百科事典・同人誌・新聞・個人出版の本・復刻マンガ

(CD/DVD) ケースがない・サンプル・規格品番なし



(4) カンボジア支援 (文房具ほか)

SIEC(西南国際教育協力隊)の取り組みについて

カンボジア支援プロジェクトは、毎年3月と11月に年2回カンボジアに渡航して教育支援を行っています。日々の活動では寄付(赤白帽子、ノート、筆記用具etc)を募ったり、他大学と共同で会議を行ったりして、渡航が迫ると、運動会や授業の準備を行い渡航に備えています。現地では、都市部にある学校から郊外にある学校まで幅広い地域の学校で運動会や授業を行っています。

【文房具回収ボックス設置場所】

ボランティアセンター前・西南会館・5号館心理学実験室前



(5) その他 (古切手・書き損じハガキ)

使用済み切手、書き損じハガキなどを福祉活動や発展途上国の支援活動に役立てよう！

①古切手 (使用済み切手)

封筒やハガキに貼ってある切手を、消印のスタンプ切手周囲1cmを残して切り取り、回収ボックスへ！

②書き損じハガキ

年賀状や通常ハガキで、ミスプリントしてしまったものなど、回収ボックスへ！

【回収ボックス設置場所】

ボラセン前の備え付け回収ボックス



② 東日本大震災ボランティア

2011年3月11日14時46分18秒に起きた東日本大震災は、東北地方を中心として広域に渡って甚大な被害をもたらし、完全に復興するまでには、まだまだ時間がかかります。本学からも学生や教職員が、ボランティア活動を行っています。

7年間 延べ活動者 75チーム 611名

2011年度	参加者	9チーム	102名	2015年度	参加者	16チーム	92名
2012年度	参加者	10チーム	116名	2016年度	参加者	4チーム	42名
2013年度	参加者	17チーム	133名	2017年度	参加者	3チーム	39名
2014年度	参加者	16チーム	87名				

(1) 日本バプテスト連盟を通しての活動

2011年9月から、毎年実施している活動。岩手県や宮城県の教会が毎月仮設住宅を支援されている活動の中で、一緒に活動しています。

(2) 大学間連携災害ボランティアネットワーク（事務局：東北学院大学）

2011年9月から、毎年実施している活動。全国126の大学が連携してネットワークを築き、全国から集まった学生たちと一緒に活動します。活動内容は、多岐にわたり、毎年、異なります。

(3) その他

福岡県主催の災害ボランティア養成講座など、連携先との事業で実施する活動などがあります。



経済学部 国際経済学科 木場雄太

(ずんだずんずん14チーム：宮城県で活動)

今回のボランティアを通して、自分の考え方が大きく変わりました。与えるのではなく与えられることの方が多い、そのように感じました。ボランティアに参加するかしらないかで大きく変わります。"あたりまえ"がいかに尊いことかということをボランティア中に実感できると思います。迷っているなら実行すべきです。その実行が現地の人に元気を与えると思います。しかし実際は、たくさんの"元気"を現地の人からもらいます。これだけは行ってみないと分からないと思います。たくさん感じるものがありました。自分はこの2つが大きく学べました。

国際文化学部 国際文化学科 吉永晴香

(AIチーム：岩手県で活動)

私は夏休みに、岩手でのボランティアへ参加しました。活動の中で、津波の恐ろしさや、仮設住宅で生活している方々のやり場のない悲しみに触れ、いかに自分が恵まれた環境にあるかということを実感しました。また、一生懸命生きているその姿に心を打たれ、私自身元気をもらいました。この活動を通して、テレビでは分からない現地での状況や被災者の方の思いを学ぶことができ、同時にこのことは絶対に風化させてはいけなかったと思います。

③ 熊本地震ボランティア

2016年4月14日21時26分頃に、熊本県熊本地方を震源とする、マグニチュード6.5の地震が発生し最大震度7を観測。さらに、4月16日1時25分頃には、同じく熊本県熊本地方を震源とする、マグニチュード7.3の地震が発生し、この地震でも最大震度7が観測されました。本学からも熊本には学生や教職員を送り出し、ボランティア活動を行っています。また、ボランティア活動の前後には研修を実施しています。

(事前研修 → チーム研修 → ボランティア活動 → 事後研修)

2016年度 参加者	7チーム	131名	
2017年度 参加者	第8回	8月20日	引率1名・学生6名(7名)
	第9回	11月25日	引率0名・学生1名(1名)
		11月26日	引率2名・学生8名(10名)

2年間
延べ活動者
10チーム
149名

ふくおか学生熊本地震支援実行委員会 主催の活動

NPO 法人 ANGEL WINGS と北九州市立大学、西南学院大学が協議体を作り助成金を得て実施する熊本地震支援ボランティア。福岡県内の大学生でネットワークを形成して活動を展開しています。

活動先：熊本県熊本市内の仮設住宅

活動内容：お茶会サロンやレクリエーションなど、被災された方々との交流。



人間科学部 社会福祉学科 吉井晴海

(こども防災まつりin 益城町で活動)

私が今回参加した益城町の防災ボランティアは、親子のみなさんとペットボトルで非常時にでも作れるビザ作りとパラリンピックの正式種目であるボッチャをしました。活動では、ただ防災を楽しく学ぶだけではなく、子どもたちと関わる中で、今も目には見えない心の傷や不安が残っているのだと強く感じました。被災地の方の心の傷を少しでも減らし、この震災を次に生かすためにも今後このような活動に参加できる機会がもっと増えていければいいなと思いました。

法学部 法律学科 前田航太郎

(こども防災教室in 甲佐町立白旗小学校で活動)

私は、この防災教室が子どもたちと交流する初めてのボランティアだったので、どのような心構えで臨むべきか全くわかりませんでした。が、小学校に到着して子どもたちと対面した時、彼らから元気な声で挨拶をされた瞬間に今まで悶々としていた自分の不安は吹き飛び、今日はとにかくこの子どもたちと一緒に楽しもう、という感情が芽生えました。そのことが結果的にイベントの成功に繋がったと思うので、これからボランティア活動を検討している方は是非、楽しむということを心がけて参加してみてください！

④ 平成 29 年 7 月九州北部豪雨災害ボランティア

2017年7月5日から6日にかけて、福岡県と大分県を中心とする九州北部で猛烈な雨を継続して降らせたことから、記録的な大雨となり甚大な被害が発生しました。本学からも学生や教職員を送り出し、ボランティア活動を行っています。

・東峰村ボランティアセンター	7月16日・17日(2日間)	延べ111名(職員4名・学生7名)
・うきはベース1st	21日間	延べ43名(職員13名・学生30名)
・うきはベース2nd	15日間	延べ56名(職員9名・学生47名)
・うきはベース日帰り	4日間	延べ135名(職員4名・学生131名)

※2018年1月末現在

(1) 東峰村災害ボランティアセンター 宝珠山サテライト (2017.7.16 と7.17 の2日間)

7月14日に開設したばかりの本部で、運営スタッフとして活動。
活動内容：受付係、資材係、物資係に分かれて担当

(2) 大学生災害ボランティア支援センター実行委員会主催 「うきはベース1st」の歩み (2017.7.22 から2017.9.18 まで)

① 実行委員会運営委員

福岡県、NPO 法人ANGEL WINGS、北九州市立大学、西南学院大学

② 「うきはベース1st」とは

うきは市から「ムラおこしセンター」を無料で貸与していただき、
全国からボランティア活動のために来福した大学生の無料宿泊拠点
として整備、また研修及び学生同士の交流などを実施。

設置期間：7月22日～9月18日60日間

利用 者：全国から約50大学 872名

活動内容：ボランティアセンターの運営、泥出し、環境整備、
ニーズ調査、交流など

(3) 福岡学生災害支援実行委員会主催 「うきはベース2nd」の歩み (2017.9.19 ～現在)

① 実行委員会運営委員

NPO 法人ANGEL WINGS、北九州市立大学、西南学院大学（福岡
県は委員会メンバーではなく、助成金拠出側として後方支援）

② 「うきはベース2nd」とは

「うきはベース1st」は様々な理由により閉鎖。しかし、この活動を
評価し、継続して活動できるよう、新しい拠点「うきはベース2nd」
を設置。また、助成金を獲得しながら、元JA に山春支店に拠点を
移動し活動を開始。

設置期間：9月19日（火）～2018年3月31日まで

（2018年度以降の具体的な日程は未定）

活動内容：泥出し作業、農業支援、仮設住宅支援、イベント支援、
松末さいこうプロジェクト、交流など



経済学部 経済学科 日高千紘

（うきはベース拠点による被災地支援）

私は昨年8月からうきはベースという宿泊
施設を拠点とした九州北部豪雨災害ボラン
ティアに参加してきました。その中で地元の
方々の温かさや力強さに触れ、さらに全国の
大学から集まる仲間とも意見を出し合い、活
動を共にする中で多くの刺激をもらい、大変
貴重な経験となりました。一方で、実際に被災
の状況を見て災害の恐ろしさ、復興すること
の大変さを改めて身に染みて感じ、今後も自
分も少しでも復興の力になりたいと思いまし
た。ボランティアに興味のある方はまずはボ
ラセンに行ってみて下さい！

文学部 外国語学科 英語専攻 田中ひかり

（うきはベース拠点による被災地支援）

復興に向かって頑張っている現地の人たち
と、素直な気持ちで地域の人たちに寄り添い、
復興に携わる学生たちの前向きな姿は、とて
も強く美しいです。ボランティアに参加す
ると、その姿を間近で見て励まされます。ま
た、朝倉市の特産品である柿をいただいた際
は、人の優しさに触れることができました。も
ちろん、現地で見る悲惨な現状にショックを
受けることも多いです。しかし私は、ボラン
ティアとは「人のパワーと強さと優しさを感じ
られるもの」だと考えています。

帰福後の活動(福岡からの被災地支援)

学生たちは、実際に被災地の状況を見て、感じ、被災地の皆さんと交流し、活動する中で、さまざまな想いを抱いて帰ってきました。学生たち一人ひとりの活動は「点」にすぎないけれど、みんなの「点」を集めれば「線」になるということを信じて活動してきました。学生たちは、東北や熊本での活動だけで終わらず、福岡でできることを考え、発信しています。

福岡での復興支援活動は、まだ東北や熊本や朝倉に行ったことがない学生も参加できます。イベント当日のみの参加も可能です。まずは、自分でできることを考え、福岡で自分の「点」を残してみませんか？詳細はボラセンにお問い合わせください。

2017年度実績

(1)被災地支援ボランティア活動報告会(東日本大震災・熊本地震・九州北部豪雨)(1月19日)

2017年度東日本大震災ボランティア・熊本地震ボランティア・九州北部豪雨ボランティアで活動した学生たちがチーム毎に発表しました。先輩たちから後輩たちへ、一人ひとりの「点」が、つながって「線」になっていることを実感しました。



(2)活動報告

大学チャペルや神学部チャペルで講話(活動報告)を担当しました。また、野方教会、福岡城西教会、長住教会、姪浜教会など日本バプテスト連盟の各教会でも報告しました。さらに、室見小学校4年生の子どもたちに向けて、情報発信しました。



(3)第5回 熊本地震及び東日本大震災復興支援

蒲島熊本県知事によるチャリティ講演会(7月1日)

東北や九州に想いを寄せて、チャリティイベントを開催しました。ロビーでは、仮設住宅の方々が作られた小物の販売やパネル展示、防災グッズコーナーを展開し、メッセージを集めました。また、熊本県の蒲島知事をお招きし「熊本地震からの創造的復興～決断・目標・対応の政治～」と題し、お話をいただきました。くまモンも駆けつけてくれました。

当日は会場にて、熊本への募金活動も行いました。

<募金額> 熊本へ 247,088 円



文学部 外国語学科 英語専攻 樋口茜

ボランティアと聞いてみなさんはどのようなものだと思いますか？私は、ボランティア活動とは一時的な支援ではなく、被災地の方々の心に寄り添い、継続的に行うことが大切であると考えています。昨年行われたチャリティ講演会の際、蒲島熊本県知事が今後の復興に向けて継続した支援が必要だとおっしゃっており、これからも活動を継続していこうと考えています。

(4) <熊本地震プロジェクト> (4月14日)

Remember 4.14 ~九州各地に想いを馳せて

熊本地震の発生から1年となる4月14日(金)図書館1階プレゼンテーションエリアにて、学生ボランティア団体「いと」のメンバーを中心に、リディア・ハンキンス宗教主事によるお祈りと熊本地震ボランティアの活動報告を行い、学生・教職員約50名が参加しました。参加者は、九州各地のみなさんに想いを馳せながら、心を合わせ、共に祈りました。



(5) はるかのひまわり (4月28日~)

阪神・淡路大震災ゆかりの「はるかのひまわり」絆プロジェクトに参加し、キャンパスに「ひまわり」の種を植えました。2012年度震災ボランティアに参加した先輩たちが宮城県の間脇小学校から持ち帰った種でした。毎年、ひまわりを育てることを通して、阪神・淡路大震災、東日本大震災のことを忘れずに、命の大切さについても語り続けています。2015年は、西南学院大学のキャンパスで採取した種を広島土砂災害で被災した、安佐南区「阿武の里」花いっぱいプロジェクトに届けました。今年もキャンパスにひまわりの花を咲かせます。



(6) 平成29年度「福岡市市民総合防災訓練」(5月21日)

福岡市域に大規模地震が発生したとの想定のもと、福岡市及び防災関係機関並びに地域住民が一体となった実効性のある総合的な防災訓練を福岡市が実施。また、訓練に参加した地域の方々へNPO団体、大学生、社会福祉協議会が展示ブースにて、災害ボランティア活動などを協働で発信し交流しました。



法学部 法律学科 寺田光大

この活動は福岡市社会福祉協議会の方とともに、日頃のボランティア活動を知ってもらうために情報発信することが目的で、「西南大の取組みについて」伝えました。当日は学生をはじめとして、地域やNPO 法人の方、福岡市長や福岡市消防局の方までたくさんの方々と交流し、新たな人脈も作ることができて、非常に有意義な活動であったとともに、今後も活動を継続して頑張ろうと強く感じる事ができた素晴らしい日になりました。ボランティア活動といっても様々な種類があります。皆さんも大学生活を有意義に過ごすために様々なことを経験してアクティブに楽しんでください!

(7)九州北部豪雨支援キャンパス内募金

(学生ボランティア団体：7月18日～28日)

学生ボランティア団体「いと」の呼びかけで、各学生ボランティア団体が集まり、キャンパス内（クロスプラザ、チャペル前、生協前）で募金活動を実施しました。「がんばってね」と声をかけてくださった方やチラシを手にとってくださった方など、その一つひとつが学生たちにとっても大きな励みとなりました。ご協力いただきました皆さまへ心から感謝いたします。

<募金額>64,285 円

<ボランティア団体>いと、OPEN、Think&Act、ワークキャンプ部、

S I E C（西南国際教育協力隊）、学生有志



(8)夏休み子ども防災教室 in 西南学院大学（8月17日・18日）

UR都市機構九州支社と連携し、団地に住んでいる子どもたちを大学に招き本学学生が防災について伝え、一緒に遊びながら学ぶイベントを開催しました。キャンパスツアーや防災教室、自宅にある物を使って作る防災グッズの工作などをしました。



《小学生の感想》

- ・地震の時に自分をどうやって守ればいいのかを知ることができて良かった！
- ・初めて大学に来たけど楽しかった。また大学に行きたくなった！

人間科学部 社会福祉学科 市原 陽

夏休み子ども防災教室では、子どもたちと楽しく防災グッズを作ったり、昼食をとって大学のキャンパスを案内しました。今まで子どもたちと関わる機会はほとんどなかったので、とても良い経験になりました。また、子どもたちとの交流を通して、災害に対する自分の思いや知識も伝えることができたので良かったです。来年も是非このイベントを開催して、地域の子どもたちと交流していきたいです！

(9)平成29年度「みやぎ招へいプログラム」(11月3日～5日)

宮城県で日本各地の被災地の大学生と宮城の大学生が交流し、大きな震災を経験した地域の若者が集い、お互いに刺激し合い、助け合うことで今後の復興及びまちづくりの担い手づくりの機会を目的とされたプログラムで、ワークショップや被災地視察、各大学の活動報告などが展開されました。九州北部豪雨の被災地にある大学ということで本学の学生2名が招かれ、事例報告しました。その後交流した神戸の大学生が「うきはベース」で活動してくれて、支援の輪が広がりました。



人間科学部 社会福祉学科 栗山花菜子

東北の復興や各地の活動について、学び、考える、濃い時間を過ごしました。人や地域のために、ボランティアに取り組む宮城、神戸、熊本の学生と出会うことができ、私が取り組んできた活動を改めて振り返ることができました。このプログラムで得られた多くのつながりと学びを、後輩たちに引き継ぐことで、福岡における復興ボランティアがより一層活発化できればいいと思います。

(10)大学祭にて模擬店出店（11月16日～19日）

東北の牡鹿半島の方々が作られた小物、熊本県からは、黒糖ドーナツ棒を取り寄せ販売しました。模擬店では、パネル展示も行い、東北や熊本の現状を発信しました。大学祭には、地域の方々や学生たちの家族や友人、東日本大震災ボランティアや熊本地震ボランティアでお世話になった方々も足を運んでくださいました。



(11)Hand in Heart（心の手をつなごう）

九州学生災害ボランティアフォーラム In くまもと（11月26日）

熊本地震の二度にわたる大きな災害を教訓に災害ボランティアセンターにおける学生が行う支援方法について学ぶとともに、学生が果たした役割を検証するため「九州はひとつ、学生が考える災害ボランティアの明日」をテーマに、基調講演、シンポジウム、ワールドカフェ、活動報告が開催されました。シンポジウムでは本学の学生がシンポジストとして登壇し、ワールドカフェでは、学生ボランティア団体「いと」がブース出展しました。

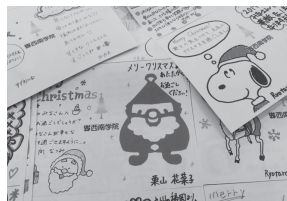
文学部 外国語学科 英語専攻 松村幸音

他大学の活動を知る機会はありませんので、交流し情報交換ができるというのは貴重でした。また、熊本地震発生直後に実際に学生ボランティアとして活動した方のお話を聞いて災害ボランティアにあたり、大学生にしかできないことがあるのだと知りました。九州北部豪雨災害が発生し、福岡でも他大学の団体と連携して活動していますが、活動に参加する際、私自身も今回のフォーラムでのことを生かせたらいいと思います。



(12)被災地にクリスマスカードを贈ろう（被災地へ想いを届ける！）

毎年、手書きのメッセージを添えて東北の仮設住宅の方々へクリスマスカードを送ります。今回は、「被災地の子どもたちに、クリスマスカードを届けよう！プロジェクト」にも参加し、東北・熊本・朝倉の小学校の児童たちにも、届けられました。今年は特に「松末さいこうプロジェクト」で交流している松末小学校にも直接お届けしました。



⑤ 海外ボランティア

海外ボランティア・ワークキャンプ

2003 年度から、毎年フィリピンでワークキャンプを実施しています。日本とフィリピンの国際飢餓対策機構と連携し、同じアジアの中で違う「アジア」を体験し、地元の人たちとの交流や貧困地域で活動を行い、ボランティアマインドを育成することを目的に活動しています。

1. 活動期間：2 月～3 月の11 日間
2. 活動場所：フィリピンマニラ郊外
3. 活動内容：貧困地域で活動、地元の人たちとの交流
小学校訪問、家屋修理や校舎の建築などのワーク
4. 募集方法：ポータルにて案内（説明会有）
5. 募集人数：約15 名



神学部 神学科 小櫻 信

生活に必要な電気、ガス、水道を私たちは当たり前のように使用している。この当たり前前の環境がいかに恵まれているのか、ということを知る事ができました。特に私たちが訪れたスラムが多くある場所では当たり前前の環境ではないということを経験し、自分の目で見る事、感じる事の大切さを学びました。また、日本では少なくなった環境がフィリピンには沢山残っています。人との交わりを大切に、人が生きるのに必要な力（ヒント）を得ました。

人間科学部 児童教育学科 新田直人

ワークキャンプ前の私は、自分が何かを与え、助ける立場だと思い込んでいました。しかしそれは、間違いでした。学生の私がフィリピンの人々のためにできることは、ほとんどない現実に自身の無力感を感じました。それでもお互いを思いやり共に生活することができていることに喜びを感じました。フィリピンで出会った人々からもらった多くのことは時間がたった今も私の力となっています。そしてこれからも私の力となってくれるでしょう。

文学部 外国語学科 フランス語専攻 阿比留 未友

私がこの活動に参加した理由は、メディアで取り上げられる貧困、飢餓問題の現状を自分の目で見てみたいと思ったからです。実際に活動を通じて、私はとても多くのことを知り、学びました。同時に、日本での当たり前前に日々感謝することができました。私はフィリピンに行って本当によかったと帰国した今でも胸を張って言えます。新入生の皆さん、この機会はきっとあなたを成長させてくれます。少しでも興味があれば是非行ってみてください。

文学部 外国語学科 英語専攻 天野瑞希

私はこのワークキャンプを通して日本に居ては学べなかったことを学び、自分自身を成長させることができました。その一つに「幸せの定義」があります。現地の人と関わる中で必ずしも「貧しい＝幸せではない」ということではないことを身をもって感じ、世界には実際に足を運ばないと分からないことが沢山あると実感しました。また、決して日本での生活は当たり前ではなく、感謝すべきものだと思いました。このフィリピンでの経験は私にとってかけがえのないものです。

海外ボランティア支援

西南学院大学のグローバル化を進めるための方策の1つとして、海外ボランティアに参加する学生を支援するために、補助金を支給しました。2017年度の対象プログラムは、「NGO 合同説明会 in 西南学院大学」に参加した団体主催のボランティア及びスタディツアーでした。この制度を利用して、インドネシア、カンボジア、中国、フィリピン、オーストラリアなどで、学生たちが活動しました。

①Batu Loceng GR

派遣国：インドネシア

参加団体：NPO 法人NICE

活動期間：2017年8月29日～9月9日

内容：農業支援や子どもたちとの交流



文学部 外国語学科 英語専攻 平田千佳

今回のワークキャンプを通して感じたのは「人の温かさ」、「皆仲間であること」の素晴らしさです。どんな時でもメンバー全員が笑顔で楽しみながら活動できていたことが良かったと思います。現地の人々は私たちを家族のように受け入れて下さり、日々感謝の気持ちでいっぱいでした。国籍や年齢は問わず共に力を合わせる事、言葉は通じなくても気持ちをひとつにするという事がいかに大切か実感することができました。

②カンボジアスタディツアー

派遣国：カンボジア

参加団体：ボランティアプラットフォーム

活動期間：2017年8月28日～9月2日

内容：子どもたちとの交流や
地雷博物館視察など



人間科学部 心理学科 肥田有里佐

カンボジアの子供たちは、私たちが孤児院に着いた途端手を繋いだり、笑顔で話しかけてきたり、かなり人懐っこかったことに驚きました。笑顔は孤児院だけでなく、カンボジアの人々全体に見られる気がしました。また、どこの国よりも笑顔とコミュニケーションを大切にしている国であると思いました。現地に行くことにより、異文化の価値観を学ぶことができた為、参加して本当に良かったと思います。

③中国キャンプ

派遣国：中国

参加団体：FIWC 九州

活動期間：2017年8月9日～9月2日

内容：ハンセン病快復者との交流など



人間科学部 社会福祉学科 吉田可知

このキャンプを通して気づいたことは、「実際に現地に行かなければわからないことだらけ」ということです。実際に現地に行き、現地の人と交流することで、中国という国やハンセン病、障害に対してのイメージが180度良い方向に変わりました。そしてなんと言っても楽しいです！最初のキックオフは何でもいいと思います。今しかできないこの経験を、ぜひ体験してみてください！きっと自分の中で大きく“何か”が変わると思います。

⑥ 学生サポーター

福岡市教育委員会と連携し、福岡市内の学校・幼稚園の要望に応じて、各学校・園で活動するというプログラムで、活動する学生を“学生サポーター”と呼んでいます。学生サポーターは、活動先の各学校・園において主に、授業や学校行事の補助、クラブ活動の支援などのサポートをしています。社会人としての経験に加え、教育現場で児童生徒と直接接することで教育活動を体験できる良い機会となっています。教職を履修していない学生も参加できます。



※詳細はポータルや、説明会で確認してください。

4月下旬に説明会を開催する予定です。年間を通して、相談に応じています。

人間科学部 児童教育学科 豊田 翔

(幼稚園・小学校・中学校で活動)

学生サポーターは実習以外で実際の教育現場に足を運び、現場の空気、実情を知りだけでなく子どもと過ごす中で子どもに沢山の事を教えてもらえる最高の機会であると感じました。これから学生サポーターとして現場に行きたいと思っている方は、是非ボランティアの枠を超え、一人の人間として、サポート先にいる元気で個性のある子どもたちと真剣に向き合って欲しいと思います。

人間科学部 児童教育学科 天野花栄

(特別支援学校で活動)

特別支援学校では、丁寧な掃除の仕方を知ったり、食パンにジャムを塗っておやつを作ったり、子どもたちが楽しみながら、毎日自分のペースで色々な事に挑戦しているということを学びました。また、一緒に遊んだりお昼ご飯を食べたり、子どもたちとたくさん触れ合いながら、とても楽しく活動することができました。なかなか勇気が出ず、3年生になってからの参加でしたが、参加できて本当に良かったです。ぜひみなさんも勇気を出して参加してみてください。

法学部 法律学科 百富真琴

(小学校で活動)

私は小学校で、学級担任の先生の授業補助として活動させていただきました。子どもたち一人一人に個性があり、なかなか打ち解けられない子ども中にはいましたが、笑顔を見せてくれるようになった時は、やって良かったと、改めてこの活動に魅力を感じました。私はもともと教職志望ではないのですが、実際に教育現場に入ることはなかなかできない経験だと思うので、教職を目指していない方もぜひ参加してみてください。

法学部 法律学科 日高歩美

(中学校で活動)

活動の中で私は、自分で考えて行動に移すことの大切さを学び、行動の結果として人の役に立てた時にやりがいを感じました。最初は出来なかったことも、気付き、考え、改善するという過程の中で出来るようになっていき、自身の成長に繋がっていると強く感じました。また、生徒や先生方に頼られたり、感謝されたりすることは頑張る原動力にもなりました。本当に貴重な経験でした。

① 久山療育園重症児者医療療育センター

西南学院と同じ日本パプテスト連盟の関連施設で、重度の知的・身体障害を重複する障がい者に対して、医療・看護・機能訓練・保育などを行っています。重症心身障がい者が社会の片隅に収容されて生きるのではなく、むしろ地域の中心に位置づけられることを願って設立された施設です。本学では、定期的に交流し、ボランティアやスタディツアー講習会、チャリティコンサートなどを開催します。

人間科学部 児童教育学科 前原花観

私は久山療育園開園祭のボランティアに参加しました。当日はカフェでお菓子の販売を行いました。その中で施設職員の方々の温かなご支援の様子、利用者様やそのご家族の方の素敵な笑顔に触れて福祉の特長も感じる事ができました。このボランティアは人々の笑顔に出会えることの喜びや職業の魅力を感じられ、また、自分自身も日々多くの人に支えられていると気づくことのできる素敵な機会でした。



② OPEN 企画 社会福祉スタディツアーin 久山療育園

学生スタッフOPENが日帰りのスタディツアーを企画し、施設見学、利用者さんとの交流、ボランティアの方との懇談をしました。特に、自らも重度障がいである大学1年のボランティアさんとの交流を通して、私たちが刺激を受け励まされました。そして障がいをもつ方々とのコミュニケーションについて、施設について、支援とは、寄り添うとは何かなど話し合い、多くの気づきと学びがありました。

文学部 外国語学科 フランス語専攻

小柳量子

私はこのスタディツアーに施設の下調べもせずに参加しました。そのため、名前を聞いただけだと、重い障害を持った方が生活する施設ということで、暗かったり怖いイメージを勝手に抱いていました。しかし、実際に行ってみると、私のイメージは全く逆のものになりました。とても明るいところで、職員の方も利用者の方とのコミュニケーションを大事にしており、利用者の方との遊びの活動もありました。活動と一緒に参加させてもらったのですが、私の担当した方は、話しかけたり一緒に遊んだりするとにこにこ笑ってくださり、私もそれだけで嬉しくなりました。その笑顔を見て、来てよかった、と感じました。



③ ボランティアコーディネーションカ3級検定（11月3日）

通常は、東京と大阪で開催されている検定を本学で実施し、72名の方が受験されました。ボランティアやコーディネーションについて、全体的に学ぶことができる貴重な機会となりました。

※ボランティアコーディネーションカとは・・・『ボランティア活動を理解し意義を認め、その活動のプロセスで多様な人や組織が対等な関係でつながり、新たな力を生み出せるように調整することで、一人ひとりが市民社会づくりに参加することを可能にする力』（日本ボランティアコーディネーター協会検定公式テキストより引用）といわれている。



人間科学部 社会福祉学科 益坂 和

ボランティアをするのは、人助けがしたいという気持ちだけでなく、楽しいという気持ちが大きく、いろんな人との出会いや初めての環境にいつもわくわくします。社会福祉協議会に就職が決まり、ボランティアを促進する側になったことがきっかけで今回の検定を受けました。今後は自分の経験や検定で学んだことを活かし、ボランティアの魅力を多くの人に知ってもらいたいです。

④ ボランティアミーティング(あすみん)

『ボランティアミーティングへ「いっしょに考えよう、これからの社会貢献について」が開催され、学生スタッフ“OPEN”のメンバーが運営スタッフとして、企画から参加しました。当日は司会やグループリーダーを担当しました。他大学の活動報告や交流を通して、新しい発見と出会いの輪が広がりました。』



文学部 英文学科 重石 流晴

「学生ボランティアミーティング」といイベントに運営スタッフとして参加しました。一つのイベントの企画の段階から意見を出しあったり、司会の役割をさせていただいたのは初めてで、貴重な体験になりました。今後も「福岡市NPO・ボランティアセンターあすみん」さんのお力添えをいただきながら、西南学院大学、そして、福岡のボランティアを活性化させていきたいです。

⑤ ノートテイク&手話講座

NPO法人MCPの方を講師にお招きし、ノートテイク&手話6時間講座を開催しました。「ノートテイク」とは、聴覚障がいを持つ学生の耳の代わりとなり、授業などその場の「音」を「文字」にして視覚的に伝えるという支援の方法で、毎年講座を開催しています。2時間講座を3回に分けて、手話も交えながら、連続講座として実施しました。今回は、視覚障害者支援に関する内容も加わり、ガイドヘルプ実践も体験しました。



人間科学部 社会福祉学科 坂本 希

最初は難しい話をされるのかな？と不安でしたが、講師の方はとても気さくで、話の合間に伝言ゲームをしたりと、とても楽しく学べました。手話の単語やノートテイクだけでなく、聴覚障がいについての知識や、視覚障がいの方へのサポートも学べ、とても有意義な講座だったと思います。これを期に、障がい者の方々への日常的な気遣いを大事にしようという意識が自分の中に出来ました。

1回目：障害理解 2回目：手話 3回目：ノートテイク

理論と実践をゲームを交えて、参加者同士がお互いに交流しながら、障がいを持つ人と持たない人が「相互に繋がる」とはどういうことかを楽しく学びました。

また、3日間とも当事者の高校生が参加してくれて、習いたての手話やノートテイクを用いながら、交流することができました。

⑥ NGO合同説明会

団体毎にブースを設置し、団体の活動紹介、スタディツアーやワークキャンプの紹介、NGO入門講座など、福岡のNGO活動について、一度に話を聞くことのできる貴重な機会となりました。学生の体験談なども聞くことができ、実際に学生たちが、海外ボランティアに一步踏み出して活動しました。

<参加団体>

- (1) 特定非営利活動法人エスペランサ
- (2) 一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン
- (3) 認定NPO法人ソルト・パヤタス
- (4) NPO 法人日本国際ワークキャンプセンター (NICE)
- (5) フレンズ国際ワークキャンプ九州 (F I WC九州)
- (6) 特定非営利活動法人 九州海外協力協会
- (7) Save the African Children
- (8) 国際教育交換協議会 (C I E E)、
- (9) ボランティアプラットフォーム
- (10) チベットを知る会
- (11) (特活) NGO福岡ネットワーク (FUNN)



商学部 経営学科 小野友莉子

私は海外でのボランティア活動に興味があり、NGO合同説明会に参加しました。NGOと聞くと堅苦しいイメージがありますが、全くそんなことはありません。団体によって活動の対象や目的も違い、社会人から学生主体のものまであり、様々です。そのような方々と繋がることは学生の私たちにとって貴重ですし、とても勉強になります。きっと自分の興味のある活動が見つかると思うので是非参加してみてください！

⑦ 卓球部 田隈公民館

小学生の夏休み期間に、公民館主催の子どもたちを対象にした卓球教室が開催されました。卓球部の学生たちが数名ボランティアに参加し、子どもたちへ卓球指導をしながら交流を深め、卓球を楽しみました。



経済学部 経済学科 藤富大輔

田隈公民館にて、西南学院大学卓球部7名で子どもたちを対象にした卓球教室でボランティアとして参加しました。卓球をしたことのない子どもたちに卓球を教えるという事が、初めての経験なので不安に感じていたのですが、卓球を通してすぐに子どもたちとの距離も縮まり、とても楽しい時間を過ごす事が出来たと思います。また、私たちも教える事の楽しさや、やりがいを感じる事ができました。

⑧ 学内ボランティア

学内各部署合同募集説明会（2017 年度実績）

大学内の各部署では、学生の皆さんに協力していただき、一緒に作り上げるさまざまなイベントや業務があります。各部署の募集するボランティアの合同説明会を実施しました。学内のボランティアでも、たくさんの学生たちが活動しています。

【参加部署】

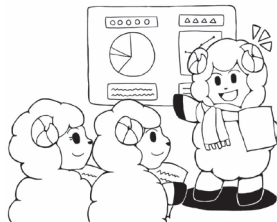
入 試 課：オープンキャンパスなど

広 報 課：Spirit（広報誌）特集意見交換など

エクステンション課：西南子どもプラザ スタッフ補助

国際センター：留学生サポーター、日本語学習チューター

ボランティアセンター：ボランティア活動全般



【内 容】

各部署のボランティア募集内容、申込み時期及び方法、ボランティア登録など



アンケートの感想から抜粋

- ・合同説明会ということで、一度にすべての部署のボランティア情報を聞くことができたので、とても効率よく良かったと思います。
- ・説明会に参加して、やりたい活動が見つかったので、とても良かったです！
- ・今まで知らなかったボランティアもたくさん紹介されていて大変参考になりました！
- ・部活をしていても空きコマなどを利用してできるボランティアもあったので、参加してみたいと思った！
- ・留学生をサポートするボランティアにチャレンジして、留学生が日本で楽しい時間を過ごせるようサポートしながら、自分自身のコミュニケーション力（英語）もスキルアップさせたい！
- ・どのボランティアも楽しそうなのでやってみたいと思った！やりたいことが沢山見つかったので、これからの学生生活が楽しみになった！
- ・一度にいろいろなボランティアを知ることができ、これまで関心のなかった分野についても知る機会となるため、とても良い説明会だと思った！

① 入試課



西南オープンキャンパスボランティア

毎年、2日間で約7,000人が来場し、西南学院大学の魅力を伝える重要なイベントです！運営スタッフの活動は、学生相談員や在学生講演会、キャンパスツアー、大学周辺バスツアーなどがあります。2日間で延べ150名もの学生が活動しています。

場所：中央キャンパス 2号館 2階
TEL：092-823-3366
Mail：adm-hp@seinan-gu.ac.jp

② 国際センター



留学生サポートボランティア

留学生の日本語の授業のお手伝いや交流行事への参加、短期間のホームステイ受け入れなど、留学生をサポートする学生を募集しています。留学生サポーターや日本語学習チューターなどがあります。

場所：中央キャンパス 2号館 4階
TEL：092-823-3346
Mail：intleduc@seinan-gu.ac.jp

③ 広報課



広報誌「SEINAN Spirit」ボランティア

在学生を対象とした広報誌を年4回発行しています。広報誌に関する学生みなさんの視点や意見を取り入れるために、企画会議、意見交換会を行っています。

場所：東キャンパス 本館 2階
TEL：092-823-3248
Mail：koho@seinan-gu.ac.jp

④ 西南子どもプラザ

本学の学生で、ボランティアや西南子どもプラザに興味のある方であれば、経験、専門は問いません。クラブ・サークル単位での参加も歓迎します。

対 象：本学学生

活動時間：10:00～17:00 の都合の良い時間（日曜除く）

場 所：西南子どもプラザ

活動内容：来館した親子と遊ぶ

おもちゃの制作や消毒

行事の手伝い

外国人親子との会話の手助け 等

申込み方法：問合せ先へ連絡し、子どもプラザボランティアに登録する。（随時受付）

問合せ先：西南子どもプラザ 092-846-9207



⑤ 聖書植物園

大学では、聖書に登場する植物を集めた「聖書植物園」を管理運営しています。その植物園の維持に必要な草取り等の活動を行っています。

活 動 日：毎月 第3土曜日 9:00～12:00

持 ち 物：軍手、帽子、タオル

参加方法：9:00 5号館前現地集合（小雨決行）
（予約・申込なし。当日参加O.Kです!）

問合せ先：総 務 課 092-823-3201

夜間・休日 092-841-1316



⑥ 障がい学生サポート

視覚に障がいのある学生を在学学生や各部署と連携しながらサポートをしています！随時、交流会や勉強会も開催しているので、“お友達になりたい方”や“サポーターに興味がある方”はお気軽にボラセンまでお問合せください。

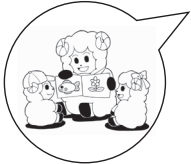
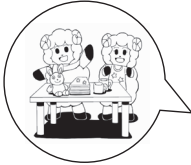
国際文化学部 国際文化学科 矢野光音

私は、「ボランティアをしたい」というよりも、「仲良くなりたい」という気持ちで、サポーターになりました。障がいがある人のサポートをする、という経験がなかったので、最初はもちろん、今でも多くの人の助けを借りながらのサポートです。サポートを通して、相手が今、何を必要としているかを想像して行動することの大切さを実感できました。



⑨ 学外ボランティア

ボラセンには、学外の様々な団体からボランティアの依頼やイベント、スタディツアーなどの案内があります。例えば、イベントスタッフ、着ぐるみのボランティア、清掃、子ども会イベント補助、学習サポーター、福祉施設でのボランティアなど、さまざまな分野の情報がたくさんあります。まずは、ボラセンに来て探してみてください。



下の表は一例ですが、ボランティア活動にはたくさんの種類があります♪ 活動始めるヒントにしてくださいね♪



対 象	種 類	内 容
大人 子ども 高齢者	自然環境	海浜美化活動（ごみ集め）、街や公園の清掃活動、植樹 など
	国際交流 国際協力	ワークキャンプ、スタディツアー、難民支援（洋服回収）、留学生支援、硬貨の仕分け（国別）、日本語指導、イベントのお手伝い など
	災害支援 防 災	被災地支援、がれき・土砂の撤去、家屋の片付け、復興支援イベントの企画・実施、避難訓練の参加、募金活動 など
障がい者	イベント	着ぐるみ、受付、設営・片づけ、手拍子やかけ声、レクリエーションの補助、出し物、遊園地の付き添い、ポスター作成、介護補助 など
外国人	まちづくり	村おこし・地域おこしの活動、交流の場づくり、社会参加の協力（補助）、イベントの企画・運営 など
動物	教 育	学習指導の補助、通訳、ノートテイク、ワークショップ開催、遊び相手、レクリエーションの指導、 など
植物	動 物	小屋の清掃、お散歩、お世話、被災動物の保護活動 など

ボランティア活動保険

ボランティア活動中や行き帰りにケガをした時、また活動先の物を壊したり、人にケガをさせた場合に補償をするのが「ボランティア活動保険」です。万が一の備えや安心して活動が出来るよう、活動を始める前に加入されることをお勧めします。

※ボランティア保険は、自治体によって異なりますが、主に300円前後の掛け金で、万が一の事故を補償してくれます。（加入日の翌日から当該年度の3月31日まで有効）

加入申込の手続き

各市区町村の社会福祉協議会



① 椿ヶ鼻水源の森づくり事業

福岡都市圏の重要な水源の1つである「大山ダム」の施設見学、森林保全体験（間伐作業）や地元食材を使ったバーベキュー、高校生との交流を楽しみながら、自然を守ることの大切さを肌で感じるプログラムとなっています。



人間科学部 心理学科 江川 萌

今回のボランティアでは大変貴重な経験をさせていただきました。大山ダムの見学ではダムの役割や現在の状況などの説明を聞き、新たな知識を得ることができました。また、間伐作業では実際に木を切って森を綺麗にしました。沢山のお話を聞き、森林を守らなければならないという意識を持ち、幅広い視野を持つようになったと思います。是非皆さんも参加してみてください。

② 能古校区夏祭り

能古島にある福岡ひまわりの里の利用者のみなさんと一緒に夏祭りを楽しみました。夏祭りでは、花火大会やステージイベント、盆踊り、飲食バザーなどが開催されました。



文学部 外国語学科 英語専攻 山内七海

私は福岡ひまわりの里に入居されている女性の方2人と共に、夏祭りをまわることを任されました。正直、高齢者の方と関わる機会が少ない私は、2人にどう接していいかわからず不安と緊張がありましたが、一緒に過ごすうちにその気持ちは忘れていました。最後の花火が上がる中で自分の名前を呼ばれ、手を差し伸べられるうちに自分を必要としてくれることを嬉しく思ったと同時に、私のおばあちゃんに会いにも行こうと思いました。

③ わいわいこどもキッチン

こどもや親の居場所づくり、地域交流を主な目的とし、公民館で月2回「こどもの食と居場所づくり支援事業」が開催されています。こどもたちと楽しくご飯を作り、一緒に食べたり遊んだり、時々勉強の手伝いをしながら交流を深めました。



商学部 商学科 中江俊介

わいわいこどもキッチン（NPO法人ゆい）は、毎月二回、土日祝日と金曜日の夕方に福岡市西区の姪北公民館で開催しています。活動時間は土日祝日の10時から14時・金曜日の16時から19時です。活動内容は主に子どもたちとの食事作りで、作ったご飯を食べた後にクイズや工作などの遊ぶ時間が設けられているのですが、本当に元気で可愛い子たちばかりで、こちらが逆に遊んでもらってるんじゃないかという感覚に陥るほどでした。子どもが好きな方、料理が上手になりたい方、食生活が偏りつつある方にはこのわいわいこどもキッチンを強くお勧めいたします。美味しいご飯と可愛い子どもたちの笑顔で幸せな気持ちになって帰れること間違い無しなので是非参加してみてください。

④ 着ぐるみボランティア

社会福祉協議会を通して届くさまざまなボランティアのうち、着ぐるみボランティアはいつも人気です。早良区健康祭りでは、サザエさん、マスオさん、福岡市のキャラクターよかろーものの着ぐるみを着て、イベントを盛り上げました。



経済学部 経済学科 桂 彩季

早良区の健康まつりのボランティアでは着ぐるみを通してではありませんでしたが、来場者の方々と挨拶や握手をとおして、さまざまな交流をすることができました。自分自身初めて着ぐるみを着たのですが、意外と暑くて体力のいるボランティアだなと感じました。初めてボランティアに参加する方にはおすすめボランティアです。

⑤おにぎり塾

ふくおかこどもおにぎり塾は、特定非営利活動法人食育推進ネットワーク福岡が主催。おにぎりのみそ汁をつくることができる自立した子ども



を育てる活動です。このボランティア活動を通して、子ども達と一緒に食の大切さを学びました。

法学部 法律学科 工藤祐誠

私は今回、中洲川端にある「おにぎり塾」の元で活動しました。「おにぎり塾」は地域の子どもたちと一緒にご飯を作って食べる、「食育」を目的とした団体です。私は今回のボランティアでたくさんの方と出会い、いろいろな事を学ぶ事が出来ました。ボランティアは自分を成長させてくれます。皆さんも是非いろいろなボランティアに参加してみてください！

⑥アットホーム博多の森

アットホーム博多の森の利用者の方々と一緒に餅つきを楽しみながら交流しました。またイベントでは、受付や誘導、介助補助などを行いました。



文学部 外国語学科 英語専攻 車 柏儀

今回、博多の森という介護老人福祉施設でボランティアをしたのですが、感動したことが多く、初めて老人ホームに行った私にとって、すごくいい経験でした。最初は不安がありましたが、センターの方々と一緒にボランティアしていた人たちが親切で、よかったです。当日、会場を準備したり、入居者の付き添いしたり、餅を作ったり、食べさせたり、片付けたりして、正直大変な1日でした。出来るだけみんなを喜ばせようと、スタッフも、ボランティアの方も一所懸命にしていた姿を見ると、涙が出るぐらい感動しました。入居者の中にも、体調はそれぞれで、100歳以上の方もいれば、60代の方もいらっしゃいます。自分で動ける方もいるし、全然動けない方も多数です。世の中には、色々な理由で、老人ホームに入った方がたくさんおられ、これから、特に私たちの世代はどういう風になっていくだろうかと考えました。ボランティアしてよかったと感じた貴重な一日でした。

⑦防災センターイベント

水害対策イベントに
おける各ブース（豪雨体験コーナー、水圧体験、受付、着ぐるみ）の担当を職員の方と一緒に
行いながら、来館者に楽しんでいただ
けるようなイベント作りを心がけました。



人間科学部 心理学科 甲斐由希子

私は、来場者の方の対応をさせていただいたのですが、家族で来られている方が多かったため普段なかなか関わることもない世代の方とも接することができ、とても新鮮でした。また、私自身も体験をさせていただいたので、水の恐ろしさを再認識することもできました。ボランティアは、様々な世界に少しでも関わらせてもらうことで、たくさんの方と接することができる良い機会だと感じました。

学生グループ活動（サークル紹介）

本学には、サークルをはじめ、たくさんのボランティア団体があり、それぞれがテーマや目標を持って取り組んでいます。興味のある方は、ぜひ代表者へ連絡して、活動に参加してくださいね。

ボランティアセンターには、学生スタッフ「OPEN」が、さまざまな形で活動しています。年2回の学生スタッフ研修や、OPEN 企画の説明会やイベントを実施しています。また、全国の大学ボランティアセンター学生スタッフが交流する学外の研修会にも参加できる機会があります。学生スタッフについては、ボラセンへ問い合わせてください。

①学生スタッフ研修

大学ボランティアセンターのスタッフと一緒に活動するボランティアセンター学生スタッフが、キャリア教育・就職支援の専門家によるブラッシュアップ・チームビルディング研修に参加し、個人の課題をグループで分かち合い、さらに成長するためのヒントを皆で探り、最終的にはチームとしての今後の方向性を考えました。

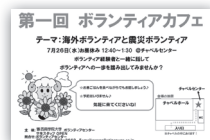


文学部 英文学科 赤司静哉

私は学生スタッフ研修に参加しました。「学生スタッフ研修」と聞くとなんだか堅いイメージですが、実際に参加してみると、とても和やかな空気の中行われ、また、講師の方が主体となって進めるのではなく学生自身が主体となって進行していくので、自然とコミュニケーション能力が身につくことを実感しました。私にとってこの研修は、今後のOPENのことを深く考えるだけでなく、コミュニケーションのスタンスをも学ぶ良い機会となりました。

②ボランティアカフェ

学生スタッフ「OPEN」と学生ボランティア団体「いと」が企画し、海外ボランティアと震災ボランティアをテーマに、ボランティア経験者と未経験者による交流会を開催しました。経験者から体験談が紹介され、活動が具体的にイメージでき、活動したことのない学生たちは、次の一歩へと励まされ、活動へとつながりました。



商学部 商学科 川谷桃子

“OPEN”どいどのメンバーも加わりボランティアカフェを行いました。ボランティアカフェとはボランティア経験者とボランティアをしてみたいという人が共に語り合う場です。震災や海外ボランティアなど様々な分野でボランティアをした人と話することで自分の視野を広げることができました。また新たな分野のボランティアに挑戦してみようと思うきっかけになりました。

③学生ボランティア団体合同説明会

学生スタッフOPENの企画で学生ボランティア団体合同説明会を実施しました。ボランティアをしたい! 何か楽しいことをしたい! ボランティアに興味がある人! どんなボランティアをしたいか悩んでいる人! たくさんの人と話してみたい人! 一人ひとりが、団体や活動とつながっていきます。



印刷機・紙折機・裁断機の使用（無料）について

利用できる団体

・学生課で「ボランティア団体」として公式に登録し、ボラセンが許可した団体

利用の手続き

印刷機・・・(用紙については各自で用意すること)

- ・ボラセンで、学生証と引き換えに印刷機利用カードを受取り、使用する。
- ・使用申込書に団体名、使用枚数を記入し、使用する。
- ・使用后、ボラセンで印刷機利用カードを返却し、学生証を受取る。

紙折機・裁断機

使用前・使用後に、ボラセンに団体名などを告げる。

活動室の利用について

利用できる団体

- ・学生課で「ボランティア団体」として公式に登録し、ボラセンが許可した団体
- ・団体設立に向けて検討中の場合は相談すること。

利用の手続き

ボラセンで活動室の予約をする。

【利用可能な時間】

通常期間 月～金 9:00～17:00

※長期休暇中や行事などで閉室する場合があります。



(1) OPEN

活 動 日：毎週月曜日の昼休み
活動場所：1 号館2 階活動室
代 表 者：江川 萌（人間科学部 心理学科）
連 絡 先：s20aq073@seinan-gakuin.jp

OPENとは…(ボランティアセンターの学生スタッフです^^)

O…Opportunity *ボランティアの紹介を通じて出会いの“機会”を！*

P…Peace *ボランティアを通して“安らぎ”をみんなの心に！*

E…Enjoy *西南生が“エンジョイ”できる場作りをお手伝い！*

N…Network *人が“つながる”場所を作ります！*

今までの活動：学内のボランティア（ペットボトルキャップの回収、三角柱作り、チャペル週報の挟み込みなど）、学外のボランティアへの参加、講師による研修会、サークル内での交流会、大学祭での模擬店参加

今後の活動：ボランティアの企画・運営、サークル内での交流会、ボランティア通信の発行、他ボランティアサークルとの交流

こんな人集まれ!!：ボランティアを企画・運営したい人、なんでもいからボランティアしたい人、こんな活動がしたいけど手伝ってくれる人がいなくて困ってる人、他サークルとの掛け持ちOK!!



(2) いと

活 動 日：週1 回お昼休み
活動場所：1 号館2 階活動室・チャペルセンター
代 表 者：松村幸音（文学部 外国語学科 英語専攻）
連 絡 先：s20ac050@seinan-gakuin.jp

「いと」は、大学主催の東日本大震災ボランティアに参加した学生たちが、福岡でできる活動を始めようと2013 年春に設立した団体です。「いと」には、個人の活動（点）

一つ一つをつなげて線にする、という意味が込められています。東日本大震災・熊本地震・九州北部豪雨の支援活動として、街頭募金活動や、チャリティーイベントの参加、活動報告会など、活動の幅は広く、災害復興支援としても、どんどん色々なことをやっていく予定です。私たちは、イベントごとに各々が協力できる範囲で力を合わせる、というスタンスです。「こんなことやってみたいなあ」「こんなことできないかなあ」、と思っている皆さん！「いと」はそれを皆で実現していく場所です。ぜひ一緒に活動してみませんか？



(3) のびっこの会

活動日：第2・第4土曜日の午後
活動場所：5号館
代表者：永田莉菜（人間科学部 児童教育学科）
連絡先：s20an046@seinan-gakuin.jp

のびっこの会は障がいをもった子どもたちとその兄弟児と一緒に遊ぶサークルです。2008年度に国際ソロプチミスト福岡ー中央よりシグマソサイエティとして承認されました。

毎月第2・第4土曜日のお昼から主に5号館で活動しています。現在は50名以上の学生が在籍し、15名ほどの子どもたちと交流しています。

活動では工作をしたり、お菓子を作ったり、夏にはキャンプ、冬にはクリスマス会を行ったりします。活動内容の決定や準備などは学生たちですべて行い、そのために毎週火曜日の昼休みに学生で集まって話し合いをしています。

また、活動以外にも本屋での絵本の読み聞かせやNHKでのボランティアにも参加しています。興味がある方はぜひ見学に来てください！（^o^）



(4) Pao

活動日：毎月第2土曜日（子どもたちとの交流活動）、
毎月2回程度（話し合い、不定期）
活動場所：5号館106教室（子どもたちとの交流活動）、
西南会館会議室、児童発達支援センターゆう
ゆうセンター等（話し合い）
代表者：月原将聖（人間科学部 児童教育学科）
連絡先：s20an041@seinan-gakuin.jp



私たちPaoは発達障がいなどの障がいをもった子どもたちと交流する学生主体のボランティアサークルです。

月に一度の子どもたちとの交流活動では“子どもたちと一緒に楽しく活動”をモットーに、遠足、運動会、クリスマス会などの季節に合わせた活動や、室内遊び・ゲーム、クッキングと様々な活動を行っています。また、児童発達支援センターゆうゆうセンターの方々にアドバイスをいただきながら、障がいをもった子どもたち一人ひとりの特性を考慮し、子どもたちが楽しめることは勿論、楽しい思い出や成功体験の機会をつくり、子どもたちの自信に繋がれるような活動を目指して毎回の活動を考えています。他にも、年に2回学習会（ゆうゆうセンターの方々によるワークショップ形式のセミナーetc）を開き、障がいについての知識を得たり、学生間で意見交換を行ったりして、日々の活動に活かしています。

Pao最大の魅力は、自分たちのしてみたいことに挑戦でき、自分たちが考えた活動で子どもたちが楽しく遊んでいる姿や笑顔を側で見られることです!!

興味がある方はぜひ一度活動に参加してみてください！連絡をお待ちしています！

(5) 手話サークル とびうめ

活動日：毎週水曜日 4時限目
活動場所：クロスプラザ
代表者：内野舞衣（人間科学部 社会福祉学科）
連絡先：s21ap080@seinan-gakuin.jp

私たちは毎週水曜日4限に集まり、ご自身もうあ者であり、手話の講義も担当していらっしゃる福田先生に教えていただきながら、手話やろうあ者の生活・文化な

どを学んでいます。学ぶ中で難しいこともありますが、毎週楽しく活動しています。

NPO法人グランドワーク福岡が主催する「花のジョイントコンサート」というイベントに毎年参加しています。また、手話検定も積極的に受験しています。難しいと思われるかもしれませんが、とても和気あいあいとした楽しく学べるサークルです！手話に興味がある方、参加を考えている方、是非連絡をお願いします。



(6) ワークキャンプ部

活動日：毎週水曜日
活動場所：西南会館5階
代表者：猿橋 耕（経済学部 経済学科）
連絡先：s20ah108@seinan-gakuin.jp

ワークキャンプ部は5大学合同（九州大学、福岡女子大学、九州産業大学、中村学園大学、西南学院大学）の福祉系ボランティアサークルです。全体で約50人のメンバー

が異なる訪問先を持つ5つのグループに分かれて、月2.3回程度それぞれの施設を訪問し、子どもたちや入所者さん、高齢者の方々と交流しています。たくさんの人との出会い、日常生活では体験できないことがみなさんを待っています！私たちと一緒に大学生活を楽しみませんか？連絡をお待ちしています！！



(7) Think&Act

活動日：毎週木曜日

活動場所：代表者にお問い合わせください

代表者：田中 渉（人間科学部 心理学科）

連絡先：s20aq036@seinan-gakuin.jp

Think&Act は国際協力、国際交流、国内ボランティアなどを行う学生団体です。大きな活動としては、国際協力として、夏季休暇を利用しての海外ワークキャンプ参加があり

ります。一昨年はフィリピン、昨年はインドネシアへ行っており、今年もアジア圏内のワークキャンプに参加予定です。国際交流では、西南学院に来ている留学生との交流など、国内ボランティアでは、6年前の北部九州豪雨の被災地域への継続支援と農作業ボランティア、幼稚園でのボランティア、などがあります。他にもハロウィンパーティやクリスマスコンパ、ボウリング大会など、多くのイベントがあり、全体でとても雰囲気の良いサークルです。



(8) 西南FIWC九州

活動日：不定期

活動場所：博多びおと一歩

代表者：吉田知可（人間科学部 社会福祉学科）

連絡先：s20ap105@seinan-gakuin.jp

FIWC 九州は、福岡を拠点にワークキャンプというボランティアの形で国際協力・国際交流を行う学生団体です。主に所属している団体は、九州大学や西南学院大学など

です。活動を行っている国は、日本・中国・フィリピン・ネパールの4カ国で、各国によって行っている活動は様々です。長期休暇（春・夏）を使って現地で活動を行います。現地調査から資金集め、インフラ整備などの活動を、自ら運営・企画できるのが学生だけで運営しているFIWC 九州の特徴です。海外ボランティアをしたいけど、、、と不安な学生さんの相談も受け付けていますので、気軽にご連絡ください。



(9) SIEC (西南国際教育協力隊)

活動日：週1回程度(不定期)

活動場所：西南会館会議室、生協食堂等

代表者：月原将聖(人間科学部 児童教育学科)

連絡先：s20an041@seinan-gakuin.jp



私たちSIEC(西南国際教育協力隊)は、他大学と共同で「カンボジアの子どもたちに学校体育の素晴らしさを届けるプロジェクト」として、毎年3月と11月の年2回カンボジアに渡航し、都市部にある学校から郊外にある学校まで幅広い地域で教育支援を行っています。

具体的には、主軸として運動文化祭、いわゆる運動会を開催し、他にも養護施設訪問や体育、音楽、図画工作等の提案授業を行っています。

国内では、学内や近隣の小・中学校、自分たちの母校に寄付(赤白帽子、ノート、筆記用具etc)を募っています。この寄付物は、現地で運動会や授業に参加してくれた子どもたちに参加賞として一人ずつ手渡ししています。また定期的に他大学と会議を行い、渡航に備えています。さらに、学園祭では模擬店で実際に現地で購入したカンボジアコーヒーを販売したり、教室企画でポスターを掲示したりして、私たちの活動を紹介しています。

各々が他のボランティア活動に参加したときには情報共有を行い、支援とは何かを考えながら日々活動しています。

興味がある方はぜひ一度活動を見に来てみてはいかがでしょうか？連絡をお待ちしています！！！！

(10) 西南ラブ・グリーン

活動日：不定期

活動場所：福岡ヤフオク!ドーム・福岡市役所・西新商店街など

代表者：ボラセンにおたずねください。

連絡先：

西南ラブ・グリーンは、e c o活動・地域と商店街でのボランティア活動を行っています。

福岡工業大学、中村学園大学、九州大学、福岡女学院大学、福岡女子大学など他学校

と200名のネットワークを構築して、市役所などの行政や、企業、地域、商店街と連携して活動しています。福岡ソフトバンクホークスとのドームでのクリーンアップ活動、海岸清掃、SUN SET LIVEという野外フェスや、大学祭でのゴミO推進活動、エコ食器・ゴミ分別ブース運営などのほか、学童保育施設の子どもたちへのボランティア活動や、地域商店街のお祭り運営・企画のボランティアも行っています。



(11) 学生YM(W)CA

活動日：毎週水曜日 15:30～
活動場所：1号館410教室（部会）
代表者：猪岡大樹（経済学部 経済学科）
連絡先：s20ah066@seinan-gakuin.jp

私たち学生YM(W)CAは、5つの班に分かれてそれぞれのテーマに沿ったボランティアを行っています。小学生と一緒に近くの公民館で様々な体験をしたり、施設

に行き、障がい者の子どもたちと遊んだり、また、たくさんの外国の子どもたちに勉強を教えたりしています。他にも、ユニセフ募金、地域清掃など幅広いボランティアをさせていただいています。ボランティアをして、たくさんの人と関われることで、人と触れ合うことの楽しさ、そしてボランティア自体の楽しさを学ぶことを目標とし、活動しています。



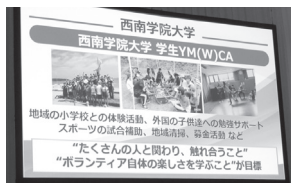
そ の 他

学生ボランティア団体助成

一般財団法人学生サポートセンターが主催する「学生ボランティア団体支援」に、2016年度は、ボランティア団体「学生YM(W)CA」が選ばれ表彰されました。これは、学生のボランティア活動を社会参加の第一歩と位置付け、「自由な発想と行動力」によって、社会貢献を計画・実行している学生の団体を対象に、団体組織の活性化やネットワーク作りなどを経済的に支援し、社会貢献活動を応援するというものです。

過去の受賞団体

2016年度	学生YM(W)CA
2015年度	Think&Act
2014年度	いと
2013年度	手話サークルとびうめ
2012年度	Mits
2010年度	学生YM(W)CA
2009年度	西南ラブ・グリーン
2008年度	のびっこの会



社会福祉協議会(社協)

地域に暮らす高齢者や障がい者をはじめ、すべての市民が住み慣れた地域で、安心して住める福祉のまちづくりを目指しながら、地域の様々な福祉課題を解決していくために、社会福祉事業の企画・実施・ボランティア活動の推進、福祉関係者の連絡調整等を行っている団体です。また、全国、都道府県、政令指定都市、市区町村にそれぞれ設置されています。

※「社会福祉協議会」は、長い名称なので、略して「社協(しゃきょう)」とも呼ばれています。



1

社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会

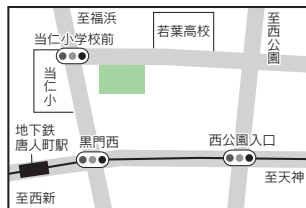
〒816-0804
福岡県春日市原町3-1-7
福岡県総合福祉センター(クローバープラザ)内
t e l . 092-584-3377
f a x . 092-584-3369・3381



2

社会福祉法人福岡市社会福祉協議会 ボランティアセンター

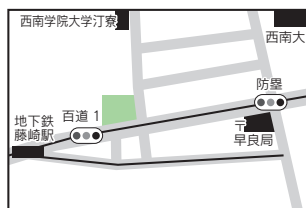
〒810-0062
福岡市中央区荒戸3丁目3-39
市民福祉プラザ2階
t e l . 092-713-0777
f a x . 092-713-0778



3

社会福祉法人福岡市早良区社会福祉協議会 早良区ボランティアセンター

〒814-0006
福岡市早良区百道1-1-1
UMIBE B.L.D 1階
t e l . 092-832-7383
f a x . 092-832-7382



2017 年度ボランティアセンター活動記録（前期）

	通 年	災害ボランティア	海外ボランティア 国 際 交 流	その他
4 月		- 熊本地震プロジェクト（4/14）『～ Remember 4.14 ～ 九州各地に想いを馳せて…』 「はるかのひまわり絆プロジェクト」種植え（4/28）	- カンボジア運動会プロジェクト（通年） ※寄付 BOX 設置 ※学生ボランティア団体 ・2016 年度海外ボランティア・ワークキャンプ（4/5） ※事後研修	・障がい学生支援（通年）【各部署連携】 ・チャリティサタ説明会（4/13）【NPO 法人チャリティサタ】 ・学内各部署ボランティア募集合同説明会（4/20・4/21） ・学生サポーター前期募集説明会（4/25）【福岡市教育委員会】 ・ネイチャーキッズスクール説明会（4/25）【くお森の学校】 ・ボランティアの授業（4/27）【社会福祉学基礎演習】 ・ボランティア通信の発行 ※ボランティアセンター学生スタッフ
5 月	弁当容器回収 （被災地支援）	・平成 29 年度「福岡市市民総合防災訓練」（5/21） ・熊本地震及び東日本大震災ボランティア報告（5/25）※大学チャペル	・《発行物》 ・2016 年度海外ボランティア・ワークキャンプ報告書 ・2016 年度海外ボランティア・ワークキャンプ報告（5/23）※大学チャペル	・学生ボランティア団体募集説明会（5/19） ・手話&ノートテイク講座 1 日目（5/17）【MCP】 ・手話&ノートテイク講座 2 日目（5/24）【MCP】 ・ボランティア通信の発行 ※ボランティアセンター学生スタッフ ・活動報告会※学生ボランティア団体（5/23） ・学生スタッフ研修（5/29） ・学生ボランティア団体支援ウェルカムパーティ（5/31）
6 月	寄付本回収 （奨学基金）	・2017 年度 東日本大震災ボランティア募集説明会（6/12）	・NGO 合同説明会 in 西南学院大学（6/21） 【（特活）NGO 福岡ネットワーク（FUNN）】	・学生スタッフ研修（6/3） 【（株）ラーニングパブリック】 ・手話&ノートテイク講座 3 日目（6/7）【MCP】 ・学生スタッフ研修（6/26）
7 月	古切手回収 ハガキ回収 文房具回収 （カホ シ ア支援） 災害支援金 （被災地支援） 西南水募金 （被災地支援）	・第 5 回 熊本地震及び東日本大震災復興支援（7/1）『海島熊本県知事によるチャリティ講演会』 ・福岡学生災害支援実行委員会立ち上げ（7/11）（NPO 法人 ANGEL WINGS・北九州市立大・西南学院大学） ・九州北部豪雨災害ボランティア（7/16・7/17）※東峰村 ・平成 29 年九州北部豪雨被災者支援募金（7/18～7/28）【学生ボランティア団体】 ・大学生災害ボランティア支援センター実行委員会立ち上げ（7/19）（NPO 法人 ANGEL WINGS・北九州市立大・西南学院大学・福岡県） ・大学生災害ボランティア支援センター「うきはベース」開設（7/22） ・九州北部豪雨災害ボランティア（7/22・7/23）※うきはベース環境整備 ・九州北部豪雨災害ボランティア（7/29・30）※うきはベース 1st ・東日本大震災ボランティア（7/25・7/26・7/28）※事前研修	・海外旅行保険と学生向け危機管理セミナー（7/26） ※補助金対象者任意参加【大学国際センター】	・大野城市ヤングアドバイザー派遣協定締結（7/12）【大野城市教育委員会】 ・ボランティアコーディネーションカ 3 級検定申込受付期間（7/20～9/20）【共催：特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会（JVCA）】 ・第 1 回 ボランティアカフェ※ボランティアセンター学生スタッフ（7/26）
8 月	学生リポーター （学習支援他） 視覚障がい学生 ガイドヘルプ	・九州北部豪雨災害ボランティア（8/10・8/11・8/12・8/18・8/19・8/20・8/22・8/23・8/26・8/27・8/28）※うきはベース 1st ・夏休み子ども防災教室 in 西南学院大学（8/17・18）【UR 都市機構】 ・熊本地震ボランティア（8/20）こども防災まつり in 益城町【くおが学生熊本地震支援実行委員会】 ・東日本大震災ボランティア（8/23～8/27）【日本バドミントン連盟】活動場所：若手系 ※チーム研修（8/21）※引継ぎ（9/26） ・東日本大震災ボランティア（8/31～9/4）【日本バドミントン連盟】活動場所：宮城県 ※チーム研修（8/22・8/28・8/29）	・海外ボランティア補助金対象プログラム活動場所：中国（8/9～9/2）【F I WC】 ・海外ボランティア補助金対象プログラム活動場所：フィリピン（8/16～9/7）【F I WC】 ・海外ボランティア補助金対象プログラム活動場所：中国（8/24～9/2）【F I WC】 ・海外ボランティア補助金対象プログラム活動場所：カンボジア（8/23～8/29）【ボラプラ】 ・海外ボランティア補助金対象プログラム活動場所：カンボジア（8/28～9/1）【ボラプラ】 ・海外ボランティア補助金対象プログラム活動場所：カンボジア（8/28～9/2）【ボラプラ】 ・海外ボランティア補助金対象プログラム活動場所：インドネシア（8/29～9/9）【N I CE】	
9 月		・九州北部豪雨災害ボランティア（9/6・9/11・9/13）※日帰りの活動 ・九州北部豪雨災害ボランティア（9/11・9/12・9/15・9/16・9/17）※うきはベース 1st ・九州北部豪雨災害ボランティア（9/18・9/19）※うきはベース 2nd 環境整備 ・九州北部豪雨災害ボランティア（9/19）※うきは市長訪問報告	・海外ボランティア補助金対象プログラム活動場所：カンボジア（9/22～9/26）【ボラプラ】	・久山療育園開園国際ボランティア（9/23）

2017 年度ボランティアセンター活動記録（後期）

	通 年	災害ボランティア	海外ボランティア 国 際 交 流	その他
10月		・東日本大震災ボランティア（10/4～10/8）【日本ハフテスト連盟】活動場所：岩手県 ※1級き・チーム研修（9/26・10/2・10/3） ・九州北部豪雨被災地支援チャリティコンサート（10/11）【福岡地方ハフテスト連合】 ・九州北部豪雨災害ボランティア（10/14・15）※うきはベース2nd ・ふくおかできるマーケット2017（10/22）※台風により中止 【福岡県・福岡県NPO・ボランティアセンター】	・海外ボランティアワークキャンプ募集説明会（10/25） ・海外ボランティアワークキャンプ募集受付期間（10/25～11/15）	・学生サポーター後期募集受付（10/3～10/4）【福岡市教育委員会】
11月	弁当容器回収 （被災地支援） ボトルキャップ回収 （ワガヤ） 寄付本回収 （奨学基金）	・みやぎ招へいプログラム（11/3～11/5）【復興大学災害ボランティアステーション】 ・東日本大震災ボランティア報告（11/12）長住教会 ※岩手8月 ・九州北部豪雨災害ボランティア（11/12）※うきはベース2nd ・被災地支援ボランティアチャペル報告（11/22）※岩手8月・うきはベース ・熊本地震ボランティアこども防災教室 in 甲佐町（11/25） ・Hand in Heart（心の手をつなごう）九州学生災害ボランティアフォーラム in くまもと～「九州はひとつ、学生が考える災害ボランティアの明日」～（11/26）【社会福祉法人 熊本市社会福祉協議会】		・ボランティアコーディネーション力3級検定（11/3）【共催：特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会（JVCA）】 ・学生スタッフ研修（11/11）【（株）ラーニングバリュー】 ・大学祭出店（11/16～11/19）※学生ボランティア団体
12月	古切手回収 ハガキ回収 文房具回収 （カボ・ジア支援）	・九州北部豪雨災害ボランティア（12/16・12/17・12/23・12/24）※うきはベース2nd ・被災地の仮設住宅へクリスマスカードの送付（東北・熊本・朝倉） ・クリスマスカードの送付（東北・熊本）【被災地の子どもたちにクリスマスカードを届けよう！プロジェクト】	・第15回海外ボランティア・ワークキャンプ（12/12）※事前研修①	・GOOD ACTIVITY FESTIVAL 2017（12/2）※学生スタッフ OPEN 例会【福岡市 NPO・ボランティア交流センターあすみん】
1月	災害支援金 （被災地支援） 西南水募金 （被災地支援）	・九州北部豪雨災害ボランティア（1/13・1/14）※うきはベース2nd ・2017年度 西南学院大学被災地復興支援活動報告会（1/19）※東日本大震災・熊本地震・九州北部豪雨	・第15回海外ボランティア・ワークキャンプ（1/16）※事前研修② ・海外旅行保険と学生向け危機管理セミナー（1/17）※補助金対象者任意参加【大学国際センター】 ・第15回海外ボランティア・ワークキャンプ（1/23）※事前研修③	
2月	学生サポーター （学習支援他） 視覚障がい学生 ガイドヘルプ	・九州北部豪雨災害ボランティア（2/8・2/9・2/10・2/11・2/12・2/17・2/18）※うきはベース2nd ・九州北部豪雨災害支援「あの日」からはじまる写真展説明会（2/13）活動（2/13～3/11） ・東日本大震災ボランティア報告（2/25）福岡城西教会 ※岩手10月	・海外ボランティア補助金対象プログラム活動場所：オーストラリア（2/10～2/26）【ボラプラ】 ・第15回海外ボランティア・ワークキャンプ（2/21）※事前研修④ ・第15回海外ボランティア・ワークキャンプ（2/23～3/5）※活動場所：フィリピン	・久山療育園ステディツアー※学生スタッフ OPEN 主催（2/16） ・大学ボランティアセンター学生スタッフリーダー研修（2/9、2/10） ・学生ボランティア団体支援表彰式 OPEN（2/15） ・オーティエンス参加型発表会 Fil2018（2/23）
3月		・九州北部豪雨災害ボランティア（3/4・3/8・3/9・3/10・3/11・3/12・3/23・3/24・3/25・3/26）※うきはベース2nd ・九州北部豪雨災害支援「あの日」からはじまる写真展活動（2/13～3/11） ・東日本大震災ボランティア報告（3/11）姪浜教会 ※宮城 ・被災地支援活動交流会 敬和学園大学との交流（3/13） ・東日本大震災ボランティア報告（3/18）野方教会 ※岩手10月 ・福岡県防災費表彰式（3/18） ・活動報告会（3/26）「学生による被災地支援を考える～セクターを越えて連携できる関係作り～」	・第15回海外ボランティア・ワークキャンプ（2/23～3/5）※活動場所：フィリピン ・Passages（難民体験シミュレーション）（3/10）	・SNS講座（3/12） ・【発行物】2018年度ボランティアガイドブック



2018年度 学院聖句

主よ、あなたの道をわたしに示し
あなたに従う道を教えてください。
あなたのまことにわたしを導いてください。
詩編 25 編 4 節、5 節前半（新共同訳）

西南学院大学 ボランティアガイドブック

2018(平成30)年4月

発行／西南学院大学

キリスト教活動支援課 ボランティアセンター

福岡市早良区西新6丁目2-9-2

TEL 092-823-3662 FAX 092-823-3335

E-mail : swvoc@seinan-gu.ac.jp

URL : <http://www.seinan-gu.ac.jp/volunteer/>

編集／西南学院大学

キリスト教活動支援課 ボランティアセンター

印刷／株式会社 キャンパスサポート西南

S Rプリンティングセンター